

平成29年度(2017)認定こども園 聖母被昇天学院幼稚園 幼稚園評価報告書

1 めざす学校像

「子どもがかがやく保育」

人格形成の大切な幼少期に、子どもが遊びの中から学び、思いやりの心を育む

2 中期的目標

1. 社会変化に対応し、地域に貢献する。
2. 子どもの安全第一主義
3. やりがいのある職場環境の構築
4. 業務改善
5. 認定こども園移行後の分析と評価

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会・第三者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成30年2月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○保護者 昨年度2月に保護者向けアンケートを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・管理職を含め、職員の離職が多かった28年度から、新体制で迎えた29年度に、不安な思いを持つ保護者が多く、これまでの保育内容が変わることへの不満や、続いてきた伝統がなくなるのではといった懸念の声がはじめは多かった。</li><li>・園としてこれまでの保育内容をふり返り、子どもにとって何が一番大切かを一つ一つ精査しながら、カリキュラムの再構築をした。また、必要に応じて保護者のとの懇談会（『保護者のみなさまと共に』）を実施し、教育内容に理解を求めたところ、少しずつ協力を得られるようになっていった。</li><li>・こども園でありながら、学校行事や教育活動における保護者の負担（クラス委員会・父母の会活動など）が大きいと感じている保護者が多数あった。幼・小・中高の一貫校であること、「幼稚園」から「こども園」へ移行したことをふまえ、学院全体の今後の検討課題である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新体制への移行の中で、子どもたちにとってよりよい教育へと変わること期待している。そのための協力を惜しまない。今まで大切にされてきた伝統と新しく取り組む教育内容をしっかりと見定めていくべきである。</li><li>・行事内容・教育内容が昨年度と変わる際には、保護者が納得できるように説明をすること。</li><li>・変わることへの不安もあるが、新しい取り組みによって子どもたちの成長が見られることもあった。今後も子どもたちをよりよい成長に導けるよう、教員のスキルアップを望む。</li><li>・学校行事や教育活動における保護者の負担軽減策を考えていく必要がある。</li></ul>

○教員

年度末に教職員向けアンケートを実施した。

- ・子どもたち一人一人に合った保育の必要性を大きく感じる一年であった。子どもたちが自立するためにはどのような援助をすべきかを考え、保育内容を見直していった。  
子どもたちに寄り添い、安心できる存在になれるよう、今後も努める。
- ・保護者との連絡を密にし、連携して子供の成長を見守っていくことができた。いつでも子どもを真ん中において考えることを忘れないようにする。
- ・「職員間の連携」「報連相の徹底」など、教員が一丸となって保育に務めることができた。
- ・計画と準備に放課後の時間が足りないと感じることがある。「こども園」であり、長時間保育であることも視野に入れた、年間行事計画や日案・月案をたて、また、保育後の時間を有効に使えるように、業務の分担化を図る必要がある。

第三者評価委員会からの意見

[平成30年6月19日開催]

- ・概ねよく目を配り運営されていると思う。
- ・保護者の方々と情報の共有ができる、開かれた園の運営を今後も進めて下さい。
- ・事故防止のために、情報開示は園だけでなく保護者の方々との間で信頼を育てて下さい。
- ・子どもを大切にするという根本の意図は評価できるが、まだ移行途中であり、保護者からの理解とサポートを得ることが求められる。働く母親が増しているので、負担を軽くできる範囲での協力を求め、行事の在り方等一緒に考えていく姿勢、保護者との密接なコミュニケーションから今後の進歩が生まれると期待している。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 社会の変化に対応し、 地域に貢献する	<p>(1) 新体制の下、組織を見直す。これまで築いてきたものを再度見直し、発展させる。</p>	<p>(ア) 前年度までの保育内容・取り組み等を見直し、新たなカリキュラム及び年間スケジュールを立案計画する。</p> <p>(イ) カリキュラム・保育内容・行事内容が大きく変わる際には、保護者への報告を細やかにし、理解を得られるよう努める。</p>	<p>(ア) 全行事の企画運営の再確認・またカリキュラムの再構築を行う。</p> <p>判定：できた ○ 一部できた △ できなかった ×</p> <p>(イ) 保護者説明会などを定期的実施し、保護者の不安を払拭しながら、教育活動の理解を得る。 「保護者のみなさまと共に」(保護者対象懇談・講演会)を年間8回実施する。</p> <p>判定：できた ○ 一部できた △ できなかった ×</p>	<p>(ア) 判定：○ すべての行事において、「ねらい」を明確化し、子どもが主体的に活動できる保育を研究・実施した。</p> <p>(イ) 判定：△ 1学期に「保護者のみなさまと共に」など、保護者対象に園長との懇談会を実施し、保育への疑問や保護者の質問に答える場を定期的に設けた。一定の理解を得ることはできたが、教育的観点から検討した保育内容と保護者のニーズとは、考え方の相違もあり、双方の教育方針の一致を目指すにはまだ時間が幼い。 また、「こども園」であることから、頻繁に園に足を運んでもらうことは難しく、全員参加の懇談会の実施は困難な状況である。参加できなかった方には書面で報告するも、やはり直接的なコミュニケーションが不可欠であるとする。</p>
	<p>(2) 認定こども園として多様化する保護者のニーズに応える努力をする。また、子育て支援の観点から地域貢献に努める。</p>	<p>(ウ) 幼小連携の一環として、内部進学者の増加を図る。</p>	<p>(ウ) 内部進学者希望者に園長推薦制度を試行する。</p> <p>判定：できた ○ 一部できた △ できなかった ×</p>	<p>(ウ) 判定：△ 園長推薦制度を試行したものの、内部進学者希望者が少数であった。今後、内部進学者数が増加するよう、より一層魅力ある保育・教育を実施できるようにする。 また、園長推薦制度をブラッシュアップし、より内部進学に関心が持てるようにする。</p>
		<p>(ア) アレルギーを持つ子どもへの給食対応を検討・実施する。</p>	<p>(ア) グルテンフリーの給食の実施に向けた給食業者との話し合いを行い、人員の確保や予算の確保を検討する。</p> <p>判定：できた ○ できなかった ×</p>	<p>(ア) 判定：○ 年度中にアレルギー対応としてグルテンフリーの給食を実施した。</p>
		<p>(イ) 地域子育て支援の一環として、園庭開放や幼児向けイベント企画をする。</p> <p>(ウ) キンダーカウンセラーの協力のもと、子育て支援を行う。</p>	<p>(イ) 年間15回「みんなであそぼう」(園庭開放・イベント企画)を実施する。</p> <p>判定：できた ○ できなかった ×</p> <p>(ウ) キンダーカウンセラーによる保護者への講演会や、教員研修を実施する。</p> <p>判定：できた ○ できなかった ×</p>	<p>(イ) 判定：○ 年間を通して、計画的に実施することができた。</p> <p>(ウ) 判定：○ 年間を通して、キンダーカウンセラーの指導の下、子どもたちへの理解を深めることができた。</p>

		(エ) 市との連携を強化し、待機児童の減少に努める。	(エ) 2号認定の子どもたちを積極的に受け入れる。  判定：できた ○ できなかった ×	(エ) 判定：○ 基準枠を超えて2号認定の子どもを受け入れた。また、特別支援を必要とする子どもの受け入れも行った。 1号2号3号認定共に、園が定めた15日以外での預かり保育を実施した。
2 子どもの安全第 一主義	(1) 重大事故防止の取り組みの強化	(ア) 遊具の保守点検・設備の安全対策を強化する。  (イ) 保育中の重大事故防止の強化  (ウ) 災害時対応ガイドラインの再確認を行う。	(ア) 遊具の安全点検、安全対策についての話し合いを実施し、危険な場所については宮繕・修理などを行う。  判定：できた ○ できなかった ×  (イ) 保育計画立案時には企画書を提出し、会議にかけ、教員間で安全面での確認をその都度し合う。  判定：できた ○ 一部できた △ できなかった ×  (ウ) 災害時に避難経路の確保や園児の命を守るための訓練を毎月実施する。  判定：毎月できた ○ 一部できた △ できなかった ×	(ア) 判定：○ 父母の会協力の下、園庭の大型遊具の下に安全マットを設置した。また、定期的に園庭の整備(除草・砂場の整備)を行った。  (イ) 判定：○ 企画書を都度提出し、会議にかけた。特に、運動会での「組体操」を見直し、ピラミッドなど、園児が不安定な高所に上がることのないようにし、「集団演技」という形をとったことで保護者からの理解を得た。  (ウ) 判定：○ 定期的に避難訓練を実施し、箕面消防署の指導を受ける。また、災害時におけるガイドラインを見直し、より安全に避難できるようにブラッシュアップした。
	(2) 食物アレルギーへの理解と対応	(ア) 給食のアレルギー対応  (イ) 教員のアレルギー研修の実施	(ア) グルテンフリーの対応【中期的目標1(2)(ア)参照】  判定：できた ○ 一部できた △ できなかった ×  (イ) 外部講師を招き、アレルギーへの知識を増やし、その対応方法を定期的に学ぶ。  判定：できた ○ できなかった ×	(ア) 判定：○ 年度中にアレルギー対応としてグルテンフリーの給食を実施した。  (イ) 判定：○ 外部講師を招きアレルギー研修を実施。エビペンの使用方法等を学ぶ。また、年度途中で養護教諭による再確認も実施した。
	(3) 教員の資質向上	(ア) 教員研修の充実を図る。	(ア) 各教員の研修会参加を促し、スキルアップにつなげる。年間一人1回以上の外部研修をうけることと、月1回の園内研修を実施する。  判定：できた ○ 一部できた △ できなかった ×	(ア) 判定：△ 器楽・体操・モンテッソーリ教育・障害児研修・宗教研修など、個々に参加することができたが、分かち合いの時間を十分に持てなかった。また、研修中人員がいないうちでの保育の質の確保が難しかった。

<p style="text-align: center;">3 やりがいのある職場環境の構築</p>	<p>(1) 教職員が長く安心して務められる労働環境の整備。また、教職員一人一人を大切にし個々の経験や能力向上を図る。</p> <p>(2) 優秀な保育士の確保</p>	<p>(ア) 新採用の教員への細やかな指導と研修を実施する。業務の負担が偏ることのないよう、各学年にて仕事の分配を行う。</p> <p>(ア) 新卒採用活動を早める。</p>	<p>(ア) 新採用の教員へ行事ごとに研修・シュミレーションを実施する。各学年リーダーを中心に月案・日案・保育指導計画を作り、質の高い保育を目指す。</p> <p>判定： 大きな成果があった ○ 一部成果があった △ 成果が無かった ×</p> <p>(ア) 各大学や保育士養成校に出向き、人員募集をする。また、インターネットによる保育士の募集をする。</p> <p>判定： 大きな成果があった ○ 一部成果があった △ 成果が無かった ×</p>	<p>(ア) 判定：△ 新採用の教員指導に力を注いだが、体調不良・自己都合のため、退職する教員があった。</p> <p>(ア) 判定：△ 早期の教員募集にもかかわらず、教員の確保が困難であった。「保育士は激務」というイメージや世論の影響は大きく、これを払拭する対策が必要である。</p>
<p style="text-align: center;">4 業務改善</p>	<p>(1) 認定こども園移行後の業務内容の見直し</p>	<p>(ア) 一人一人にかかる業務の負担を軽減する。</p>	<p>(ア) 業務の効率化のためのシステム導入・仕事の分担化を図る</p> <p>判定： できた ○ 一部できた △ できなかった ×</p>	<p>(ア) 判定：× 認定こども園としての「長時間保育」「保護者のニーズの多様化」「認定こども園移行後の事務業務の複雑さ」など、一人一人の負担が大きい中で、</p> <p>2017年度は、2歳児12名、3歳児99名、4歳児100名、5歳児97名、合計308名の大規模な園児を預かり、園長を含む管理職3名が入れ替わり教職員40名が一丸となって保育教育に努めた。</p> <p>業務の分担化を進める中で、業務の効率化の一工夫として、管理職である2名の主幹教諭が担任団に加わり、その力量を発揮し担任業務の強化を図った。</p> <p>しかしながら、教職員不足の課題を持つ中で「十分な業務遂行」には至らなかった。</p>

<p>5 認定こども園移行後の評価</p>	<p>(1) 子どもと保護者の満足度を上げる</p>	<p>(ア) 教員一人一人が「認定こども園」の仕組みをわかり、在り方に理解を深め、それぞれの業務に臨む。</p>	<p>(ア) 「認定こども園」についての説明会・研修等に参加し、理解を深め、業務に活かす。</p> <p>判定：</p> <p>できた ○ 一部できた △ できなかった ×</p>	<p>(ア) 判定：△</p> <p>移行前までの保育内容をそのまま移行後に引き継ぐことは無効解く、保育内容を精査する必要があった。「これまで続けてきた歴史ある幼稚園」という認識と「新たに進みだした認定こども園」という認識には相違があり、保護者のニーズも異なる。それぞれの考えや思いを受け止め、子どもや保護者の満足度を上げていけるよう今後も保育環境と保育内容をブラッシュアップする必要がある。</p>
---------------------------	----------------------------	--	--	--